

トピックス

住友金属のベース活動
【安全】の歴史 ～『安全体感教育』に至るまで～

～ 住友金属工業㈱ ～



『安全体感教育』 協豊会による視察・受講の風景

昭和26年欧州留学中の当社（尼崎）製鋼所社員が、ドイツの鉄鉱石採掘坑内で初めて耳にした言葉、それが【ご安全に！】（Gluckauf、グリュックアウフ）という挨拶。帰国後、製鋼所でこの挨拶運動を展開し、その後全社に、そして鉄鋼業界を中心に日本全国に拡大した。

更に昭和49年には、当時の和歌山製鉄所労務部長がベルギー視察時に見つけた安全イラスト表示をヒントに開発した【KYT（危険予知訓練）】活動を普及させ、その後KYT活動が日本の基本的な労働安全衛生活動の一つとなり、休業災害度数率は大幅に減少した。

一方で、生産設備の自動化・複雑化により、また人的には少数・多能化に伴い、『知識不足』『うっかり』『ルール無視』等での重大災害が後を絶たない状況にあった。

そこで平成10年に、鹿島製鉄所で初の【安全】の見える化を図る目的で、『安全体感教育』を導入。事故・災害の疑似体験・体感を通じて、安全態度向上に努めている。

社員・関係会社の若年層からベテランまで、高所墜落衝撃体感、安全帯負荷体感、回転体危険体感、電気危険体感等一連の体感教育を受講する事、人を育てる事に取組んでいる。

平成19年には豊田章男副社長様（現社長）はじめ、トヨタ自動車幹部の方々、協豊会メンバー各社幹部の方々、多くの方にご来所いただき、当社安全体感教育のご視察 並びに受講をして頂いた。